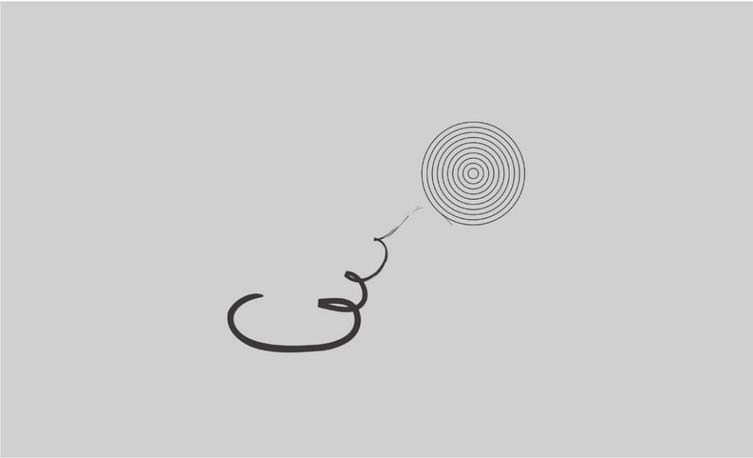

L PACK.
『定吉と金兵衛』
作・演出・出演：L PACK.
原案：落語『茶の湯』より
美術：青木一将（ミラクルファクトリー）、加藤芽、狩野哲郎、
佐藤慎太郎（乃し梅本舗 佐藤屋）、新城大地郎、Taigen Kawabe（Bo Ningen）、
田中恭子（RITOGLASS）、田幡畳店、風景をつくっていく野良着 SAGYO
舞台監督：青木一将（ミラクルファクトリー）
美術補佐：横山キミ
宣伝美術：植田 正
記録映像・写真：加藤和也
制作：松宮俊文、荒川真由子（フェスティバル/トーキョー）
制作アシスタント：柿木初美
インターン：堂前晶子、戸倉紀乃、村上理衣奈
特別協力：ジュンク堂書店 池袋本店
協力：天野光太郎、嶋田勇介、三宅航太郎
企画・主催：フェスティバル/トーキョー

L PACK.
Saduck & Kimbley
Written, Directed and Performed by L PACK.
Based on the rakugo play "Cha no Yu"

Design: Kazumasa Aoki (Miracle Factory), Mei Kato, Tetsuro Kano,
Shintaro Sato (SATO-YA), Daichiro Shinjo,
Taigen Kawabe (Bo Ningen), Kyoko Tanaka (RITOGLASS), Tabata Tatami, SAGYO

Stage Manager: Kazumasa Aoki (Miracle Factory)
Design Assistant: Kimi Yokoyama
Publicity Design: Tadashi Ueda
Photography & Video: Kazuya Kato
Production Coordinators: Toshifumi Matsumiya, Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo)
Production Assistant: Hatsumi Kakinoki
Interns: Akiko Domae, Kino Tokura, Riina Murakami
Special cooperation from Junkudo Ikebukuro
In cooperation with Kotaro Amano, Yusuke Shimada, Kotaro Miyake
Planned and presented by Festival/Tokyo

まちなかパフォーマンスシリーズ

ア・ポエット：ウィー・シー・ア・レインボー
『A Poet: We See a Rainbow』
作・演出・出演：森 栄喜
10/20（Sat）- 10/22（Mon）
ジュンク堂書店 池袋本店9階ギャラリースペース、
南池袋公園 サクラテラス、
東京芸術劇場 劇場前広場／ロワー広場

L PACK.『定吉と金兵衛』
作・演出・出演：L PACK.
原案：落語『茶の湯』より
10/31（Wed）, 11/2（Fri）, 11/3（Sat）
豊島区立目白庭園　赤鳥庵

『ラジオ太平洋』
作・演出・出演：福田 毅
10/27（Sat）- 10/28（Sun）,
11/10（Sat）- 11/11（Sun）
東京さくらトラム（都電荒川線）車内

『テラ』
坂田ゆかり（演出）×稲継美保（出演）×田中教順（音楽）
原案：三好十郎
「詩劇『水仙と木魚』―― 一少女の歌える――」ほか
11/14（Wed）- 11/17（Sat）
西巣鴨 西方寺

フェスティバル/トーキョー実行委員会
顧問　野村 萬　公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師
福原義春　株式会社資生堂 名誉会長
名誉実行委員長　高野之夫　豊島区長
実行委員長　福地茂雄　公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、アサヒビール株式会社 社友
副実行委員長　市村作知雄　NPO法人アートネットワーク・ジャパン 顧問
フェスティバル/トーキョー エグゼクティブ・ディレクター
豊島区文化商工部長
東澤 昭　公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長
委員　尾崎元規　公益社団法人企業メセナ協議会 理事長、花王株式会社 顧問
熊倉純子　東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授
田中俊宏　株式会社資生堂企業文化部長
鈴木敦子　アサヒグループホールディングス株式会社CSR部門　ゼネラルマネジャー
鈴木正美　東京商工会議所豊島支部 会長
永井多恵子　公益財団法人せたがや文化財団 理事長
渡邉圭介　豊島区文化商工部文化デザイン課長
岸 正人　公益財団法人としま未来文化財団 劇場開設準備担当課長
蓬池奈緒子　公益財団法人としま未来文化財団
あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）支配人
米原晶子　NPO法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
長島 確　フェスティバル/トーキョー ディレクター
河合千佳　フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター
蓬原円花　フェスティバル/トーキョー 事務局長
監事　田中真理子　豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー　福井健策、北澤尚登（骨董通り法律事務所）

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
エグゼクティブ・ディレクター　市村作知雄
ディレクター　長島 確
共同ディレクター　河合千佳
事務局長　蓬原円花
制作　荒川真由子、松宮俊文、岡崎由実子、武田侑子、新井椎菜、藤井友理、
長田幸史、四宮章吾、山縣昌雄
広報チーフ　小倉明紀子
広報　神永真美、細川浩伸、植田あすま美、吉田幸恵
経理　堤 久美子
総務　米原晶子、平田幸幸、藤島麻希
票券　武井和美

技術監督　寅川英司
照明コーディネート　木下和己（株式会社ファクター）
音響コーディネート　相川 晶（有限会社サウンドウィーズ）
アートディレクション　氏家啓雄（有限会社氏家プランニングオフィス）
イラスト　Naomi Katsu
ウェブサイト　竹下雅板（有限会社氏家プランニングオフィス）、株式会社Mtame
海外広報・翻訳　ウィリアム・アンドリューズ
執筆　鈴木理映子

主催　フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区／公益財団法人としま未来文化財団／NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
アジアシリーズ共催　国際交流基金アジアセンター
協賛　アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂
後援　外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
特別協力　西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、
株式会社サンシャインシティ、東京都交通局、ジュンク堂書店 池袋本店
協力　東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、
一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、
公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、
特定非営利活動法人ビ ファー池袋まちづくり、池袋西口公園活用協議会、
南池袋公園をよくする会、ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、
池袋ホテル会、サンシャインシティプリンスホテル
宣伝協力　株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、
有限会社アップリンク

平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業（豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業）

フェスティバル/トーキョー 18は東京芸術祭 2018の一環として開催されます。

フェスティバル/トーキョーは東アジア文化都市2019豊島を応援しています。

インターン　伊藤 舞、円城寺すみれ、木村 夏、小堀詠美、竹内萌佳、堂前晶子、戸倉紀乃、中岡志帆、
中村風舎、長谷川智美、前田麗奈、松本理沙、宮本日向子、村上理衣奈、山里真紀子、吉澤 萌

スペシャルサンクス：F/Tサポーターのみなさま

会期：平成30年（2018年）10月13日（土）―11月18日（日）

Festival/Tokyo Executive Committee
Advisors:
Man Nomura (Chair, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations; Noh actor)
Yoshiharu Fukuhara (Honorary Chair, Shiseido Co., Ltd.)

Honorary President of the Executive Committee:
Yukio Takano (Mayor of Toshima City)

Chair of the Executive Committee:
Shigeo Fukuchi (Advisor, New National Theatre Foundation; Senior Alumnus, Asahi Breweries, Ltd.)

Vice Chairs of the Executive Committee:
Sachio Ichimura (Director, NPO Arts Network Japan; Executive Director, Festival/Tokyo)
Akira Saito (Director, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Akira Touzawa (Secretariat Director, Toshima Mirai Cultural Foundation)

Committee Members:
Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts; Corporate Advisor, Kao Corporation)
Sumiko Kumakura (Professor, Department of Musical Creativity and the Environment, Tokyo University of the Arts)
Toshihiro Tanaka (General Manager, Corporate Culture Department, Shiseido Co., Ltd.)
Atsuko Suzuki (General Manager, CSR Department, Asahi Breweries, Ltd.)
Masami Suzuki (Chair, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima)
Taeko Nagai (Chair, Setagaya Arts Foundation)
Keisuke Watanabe (Director, Cultural Design Section, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Masato Kishi (Manager, New Theater Opening Preparation Room, Toshima Mirai Cultural Foundation)
Naoko Hasuike (Toshima Mirai Cultural Foundation; Executive Director, Owlspot Theater / Toshima Performing Arts Center)
Akiko Yonehara (Representative, NPO Arts Network Japan)
Kaku Nagashima (Director, Festival/Tokyo)
Chika Kawai (Co-Director, Festival/Tokyo)
Madoka Ashihara (Administrative Director, Festival/Tokyo)

Supervisor:　Mariko Tanaka (Director, General Affairs Section, General Affairs Division, Toshima City)
Legal Advisors:　Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat
Executive Director:　Sachio Ichimura
Director:　Kaku Nagashima
Co-Director:　Chika Kawai
Administrative Director:　Madoka Ashihara
Production Coordinators:　Mayuko Arakawa, Toshifumi Matsumiya, Yumiko Okazaki, Yuko Takeda, Wakana Arai, Yuuri Fujii, Takashi Osada, Shogo Shinomiya, Masao Yamagata
Public Relations Director:　Akiko Ogura
Public Relations:　Mami Kaminaga, Hironobu Hosokawa, Asumi Ueda, Yukie Yoshida
Accounting:　Kumiko Tsutsumi
Administrators:　Akiko Yonehara, Saki Hirata, Maki Fujishima
Ticket Administration:　Kazumi Takei
Technical Director:　Eiji Torakawa
Lighting Coordination:　Naoki Kineshita (Factor Co., Ltd.)
Sound Coordination:　Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)
Art Direction:　Yoshio Ujiie (Ujiie planning office)
Illustrations:　Naomi Katsu
Website:　Masaya Takeshita (Ujiie planning office), Mtame, Inc.
Overseas PR, Translation:　William Andrews
Copywriting:　Rieko Suzuki

Interns:
Mai Ito, Sumire Enjoji, Natsu Kimura, Emmy Kobori, Moeka Takeuchi, Akiko Domae, Kino Tokura, Shiho Nakaoka, Kazane Nakamura, Satomi Hasegawa, Reina Maeda, Risa Matsumoto, Hinako Miyakoto, Riina Murakami, Makiko Yamazato, Moe Yoshizawa

Special thanks to the F/T Volunteer Spporters

Organizers:　Festival/Tokyo Executive Committee,
Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ),
Arts Council Tokyo & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)
Asia Series co-organized by the Japan Foundation Asia Center
Sponsored by Asahi Group Holdings, Ltd., Shiseido Co., Ltd.
Endorsed by the Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO, J-WAVE 81.3 FM
Special cooperation from SEIBU IKEBUKUROHGETEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD.,
Sunshine City Corporation, Toei Transportation, Junkudo Ikebukuro
In cooperation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation,
Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association,
Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Ikebukuro West Gate Park Management,
Neighborhood of the Minami Ikebukuro Park, Hotel Metropolitan Tokyo Ikebukuro, Hotel Grand City,
Ikebukuro Hotel Association, Sunshine City Prince Hotel
PR Support: Poster Hari's, Waseda University Tsubouchi Memorial Theatre Museum, UPLINK

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2018
Festival/Tokyo 2018 is organized as part of Tokyo Festival 2018.
Festival/Tokyo supports Culture City of East Asia 2019 Toshima.

Period: October 13th (Sat) to November 18th (Sun), 2018

発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会　〒171-0031 東京都豊島区目白5-24-12 旧真和中学校4階　TEL: 03-5961-5202　https://festival-tokyo.jp
編集：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局　デザイン：コバヤシタクシ

本公演のアンケートへ、
ご協力をお願いいたします
アンケートフォームはこちら▶

まちなかパフォーマンスシリーズ

L PACK.
定吉と金兵衛

作・演出・出演：L PACK.
原作：落語『茶の湯』より

2018
10.31 Wed , **11.2** Fri , **11.3** Sat
豊島区立目白庭園 赤鳥庵
Sekicho-an（Mejiro Garden）

F/T in the City Performance Series
L PACK.
Saduck & Kimbley
Written, Directed and Performed by
L PACK.
Based on the rakugo play
"Cha no Yu"

Festival/Tokyo

東京芸術祭 2018
Tokyo Festival 2018

「コーヒーのある風景」から場を育むユニットが、茶室と出会う

文：内田伸一

「コーヒーのある風景」をきっかけに人々が交わる場を生み出し、まちの要素の一部となることを目指す。そんなテーマを掲げて各地のアートプロジェクトやレジデンスプログラム、展覧会等に関わるのが、L PACK.（小田桐奨、中嶋哲矢）だ。F/T18では「まちなかパフォーマンス」のひとつとして目白庭園で茶会と展示に挑む。タイトルの『定吉と金兵衛』が示唆するとおり、原案は古典落語『茶の湯』。商家の隠居が小僧を相手に知ったかぶりで始めた茶の湯が、ひどい勘違いのまま周囲を巻き込んでいく。そんな喜劇をもとに、彼らはどんなお点前で私たちを迎えてくれるのか？

「一杯のコーヒー」を建築の最小単位とする

――最初に、これまでお二人がどんな考えをベースに活動してきたかを伺えますか。

中嶋　僕らは静岡文化芸術大学の空間造形学科で、同級生でした。そこでは建築を学びましたが、実現予定のない建物の図面や模型づくりを頑張っても、そこにリアリティがなかなか持てなかったんですね。何かもっと、現場寄りのところへの興味が強くなっていきました。加えて、とにかく「ハコありき」でつくる建築だけでは、今の時代に合わないのではとも感じていて。すでに各所で空き家がとても多くなり、一方でスクラップ＆ビルドは続いている。そうした状況にも違和感がありました。

小田桐　そんな時期に、近くのあるレストランがひとつのきっかけになりました。老夫婦が営む店で、川沿いの古い倉庫を旦那さんが自ら改装して、レストランとギャラリーとゲストルームにしていました。今のようにセルフリノベーションが盛んになる前、ごく早い事例だったのかなと思います。

中嶋　それが衝撃的で、自然とコーヒーやお昼ご飯に行くようになりました。そのうち、ランチの対応が一息ついてコーヒーブレイクになると、そのおじさんが僕らの隣に座って、インテリアやデザイン、美術などの話をしてくれるようになって。

――粋な課外授業ですね。それが、お二人が食や会話を意識した場づくりに進むきっかけに？

小田桐　そうですね。今に通じる最初のプロジェクトということでは、2006年に二人で協働した卒業制作「L PROJECT」だと思います。

中嶋　お話したような経緯から、現実に人が集まれる場を僕らの「建築」として提案したいと考えました。まず、卒業に伴い引越予定の友人たちから、ソファやテーブル、椅子などを借りたりもらったりしました。また、彼らが愛用したコーヒーカップも、全部で50個ほど集めました。それらを使って大学の広場で、10日間だけのカフェを開いたんです。「みんなが使ってきた家具を並べ、僕らがコーヒーを淹れるので、使ってください」という場にしてみました。

――それは楽しそうですね。でもこれを卒制にするのは、やはり学校側では物議を醸した？

中嶋　そうですね。二人組での卒制も、内容的にも前例がなかったようで。でも、そうしたハードルを超えていくのも、さっきお話しした「リアリティ」だと思うんです。ある場所での「こういうことがしたい」を実現させるために、大学事務局に企画書を提出し、大学の守衛さんなどにも事情を話して交渉する。それは授業では体験したことのない、小さくても実社会とつながる感覚のある体験で、結構やりがいがありました。

　卒業制作展に合わせてカフェをオープンしたので、展覧会の待ち合わせ場所にもなり、友人たちはもちろん、近隣の方々と思しきお客さんもきてくれました。守衛部屋の目の前だったので、守衛さんも利用してくれて。あと先生たちもふつうに、打ち合わせや休憩に使ってくれましたね。

「わらしべ長者」的に活動を広げた10余年

小田桐　その後、今日までの約10年は、振り返る間もなく活動が次へ次へとつながっていった感じです。その最初のきっかけは、Nadegata Instant Party（地域コミュニティにコミットし、市民演劇からネットTV局まで、ある「口実」の達成を目指して参加者を巻き込み、出来事を「現実」につくりあげるアートユニット）のプロジェクトへの参加でした。

中嶋　卒制でのフラットなプラットフォームづくりを、大学の先輩でナデガタの野田ちゃん（野田智子）が面白がってくれて。彼らの東京での最初のプロジェクト「インストールパーティー」展に誘ってくれました。そこでまた新しいつながりが生まれ、次のプロジェクトの機会が……という感じです。

――例を挙げると、横浜黄金町で元旅館を活用した「竜宮美術旅館」（2010-2012）や、アーティストの奈良美智さんらが一日店長を務める日もあった「VISITOR CENTER AND STAND CAFE」（あいちトリエンナーレ2013。青田真也とのユニット・NAKAYOSI名義のプロジェクト）など、アーティストや地域と関わりつつ、多彩な場づくりを続けていますね。

中嶋　「以前のあの場所は面白かったね」と声をかけてもらうことは多くて、ちょっと「わらしべ長者」みたいでもありますね（笑）。今回F/Tからお誘いをいただいたのも、それがめぐりめぐってというふうに感じています。

――協働も多く、その相手もミュージシャンのテニスコーツから七宝作家の近藤健一さんまで、多岐に渡っています。こうした領域横断的な活動について、自分たちではどうとらえていますか？

中嶋　すべてのスキマを縫って、いろんな分野を横断していく、そんな存在でありたいです。今回のプロジェクトも、「それってパフォーマンスになるのですか？」と聞かれたら、つい「いいえ」と言いたくなる天邪鬼ですが（笑）、それはジャンルに縛られない活動をしたいことも関係しています。様々な領域の縁（ふち）をなぞりつつ、色々なことをやってみたい気持ちが強いんですね。

　その際、コーヒーは僕らにとって、それさえあれば場づくりを始められる便利な道具のような存在です。そこから空間が広がり、ある時間を人々と共有できる。そしてコーヒーというのは、淹れて、味わって、飲み干したら終わる。そういうところも、何か腑に落ちるところが多いなと思っています。

小田桐　ある表現領域の魅力を全く知らない人たちに対して、作品がその空間にあり、もしかしたら作家本人もそこにいて、互いにコーヒーを飲みつつ同じ時間を共有できる場をつくれたらという思いもあります。そういう人たちと一緒に、美術館やギャラリーとも違う場を新しくつくれるのではないか。

　その際に、面白いことがなるべく起きそうな「余白」は常に意識しています。これは仕向けるというより、期待するという感じですが。また、期間限定のプロジェクトも多いですが、公的な活動期間を終えた後も、そこでの出会いをもとに発展していった場所もあります。一応「L PACK.」自体は死ぬまで続けようということでやっていて、それが今後どう変化していくのかは、まだ僕らにもわかりません。

ミーツF/T「茶室で落語『茶の湯』を楽しもう！」の様子

――個々のプロジェクトと同時に、その総体もL PACK.の表現ということですね。

「勘違い」に誘われた茶の湯との出会い

――それでは『定吉と金兵衛』について伺います。落語の古典「茶の湯」を原案に、目白庭園の茶室・赤鳥庵で「茶会」と展示を行うそうですね。

中嶋　最初のきっかけは、去年新潟の長岡駅周辺の商店街で開催されたフェスティバル「ヤングアート長岡」に招かれた際の体験です。現地リサーチで長岡はお茶も有名な所だと知り、そこから落語の『茶の湯』も知りました。そうしてリサーチの中で見つけたものが結びついて、プロジェクトの形になっていくことが僕らの場合は多いんですね。

――開催に先立って9月16日、東京国立博物館九条館の茶室に三遊亭遊子さんを迎えての『茶の湯』上演会＆トークも行われました。その軽妙な語り口を通じて、この噺の面白さは、最後まで正しい作法は使われず「勘違い」のまま終わるところではと思いました。招かれる町人たちもそうで、その勘違いがお百姓にまで広がってしまう。お二人はこうした話のどこに惹かれたのでしょう？

中嶋　最初はそうした勘違いが、僕らが初めて長岡市に入った時、当地の日常用具や習慣の中に、初めて見る不思議なものが数多くあった体験と重なる気がしたんです。たとえば、消防車についているようなホースが各家庭の壁から外に出ている。これは冬の融雪用としてなのですが、それが奇妙な光景に感じられて。そこで、これを出発点にインスタレーションを行いました。そのホースを茶道でいう路地への打ち水の道具に見立てたりして、「勘違い」だけで生まれた空間です。

小田桐　今回はその続編を考えていた際にF/Tのお話があり、かつ茶室が使えるかもしれないというので、僕らの考えた「茶会」を実現できることになりました。僕は、落語という表現がくれる、想像力の余白のようなものに惹かれます。また、お茶は貴族文化だったものが、やがて庶民にも広まったという流れが実際にあり、他方でああした勘違いも起こり得るのは面白いなと。F/Tに訪れる人々も、普段からアートや舞台芸術が好きでよく知っている人、それって何？という人、色々な方がいると思います。また、日本中あちこちで芸術祭が開かれているなかで、いわゆる現代アートと、よくテレビで出てくる「アート」のようなものとの距離もありますよね。

――現代の諸相にも重なるものとして、色々なとらえ方ができる？

小田桐　はい。ただ、今回の茶席について言うと、素人とはいえ僕らもそれなりに茶道のことを見聞きしているから、大きな勘違いは難しいですよね。そこで、あえての勘違いを生じさせるような意味合いで、日本語の同音異義語を要所要所で使おうとしています。たとえば、お茶の席で取る姿勢の「正座」を、一度ひらがなにして、そこから「星座」に置き換える。具体的にはギリシャ神話におけるみずがめ座の話を、茶会に入れ込もうと考えています。全能神ゼウスが地球の美少年ガニュメーデースを神々の宴のための給仕にする話です。茶会の主人がゼウスで、小僧の定吉的な役割がガニュメーデース（みずがめ座は、給仕するガニュメーデースの姿に見立てられた星座）。そして茶会の客人たちはオリュムポスの神々――そんなことを考えています。

領域を超え／つなげ／広げていく

――気のおけない柔らかな関係性を象徴するようなコーヒーに対して、茶の湯はあるルールを基礎に行われる奥の深いコミュニケーションとして、多くの芸術家の関心を引いてきた領域とも言えますね。今回、コーヒーとお茶をめぐるこうした違いゆえの面白さやチャレンジはありますか？

中嶋　たしかに違いはありますね。まず、僕らがふだんコーヒーを起点につくる場は、訪れる人それぞれのペースで時間が進んでいく。でも今回は、始まりと終わりが一定の時間で区切られます。逆にその違いをどう活かせるか、考えているところです。

L PACK.（エルパック）
小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。各地のプロジェクトやレジデンスプログラム、エキシビションに参加。

小田桐　でも、実はエチオピアには「コーヒーセレモニー」というのもあって。女性が行うもので、お茶と同様、決まった流れのなかでコーヒーを楽しむ会です。できればそうした要素も入れ込んでいきたいですね。基本的に僕は、これまでやったことのないものに楽しさを感じる方なので、そこで苦しむこともありますが、今回は本当に楽しみです。

　お茶の世界の方々が見たら「全然違うよ！」となるかもしれませんが、それも外の人間だからこそできることかもしれない。そこから、ふだんから茶の湯に親しんでいる人たちとも話ができたら嬉しいです。僕らの活動は形ある「モノ」をほとんどつくらないぶん、「コーヒーのある風景」ということ以外は毎回、必然的に新しくなってしまうとも言えます。今回はそのあたりも改めて振り返りつつ、自分たちが持っているものを、もうひとつ別のかたちでお見せできるのではないかなという感じはあります。

――新しいフィールドへの挑戦が、同時に自分たちのこれまでを再確認する機会にもなるということですね。楽しみにしています。

内田伸一（うちだ・しんいち）
1971年生まれ。ライター／編集者。若手建築家らを中心に発行された雑誌『A』、ロンドン発カルチャー誌の日本版『Dazed & Confused Japan』、クロスジャンルのウェブサイト『REALTOKYO』などに参加。日英併記の現代美術誌／ウェブサイト『ART iT』で副編集長を務めた後、現在フリーランス。